



Established in 1992

# JCPF会報

Japanese Cleft Palate Foundation  
 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

発行 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会事務局  
 〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11  
 愛知学院大学歯学部  
 TEL: 052(757)4312 FAX: 052(757)4465  
 振込口座: 郵便局 00850-1-109941  
 三菱東京UFJ銀行覚王山支店 普通 1045666  
<http://jcpf.agu.jp> E-mail: [jcpf@jcpf.or.jp](mailto:jcpf@jcpf.or.jp)

Vol. 23, No. 4  
 (平成27年3月20日発行)

# 76

定価 400円

## 外見の変化を目立たなくするカバーメーカーキャップ

資生堂 ライフクオリティー ビューティーセンター 村井 明美

あざや傷あとなどの皮膚変色や凹凸、がん治療の副作用による眉脱毛や肌色変化、顔面神経麻痺による眉や口などの形状バランスの変化など、外見の変化は社会生活をおくる上で障がいとなる場合があります。口唇口蓋裂においても、手術による傷あとや口唇の形状など外見の変化が起こります。

そのような外見の変化を目立たなくする方法のひとつに、カバーメーカーキャップがあります。メーカーキャップは疾患そのものを治癒改善させるものではありませんが、痛みを伴わず、やり直しができ、手軽で何度も再現が可能です。女性だけでなく男性にもでき、年齢も小児から高齢者まで幅広く対応できます。メーカーキャップは単に外見をカバーするだけでなく、患者様のQOL(Quality of Lifeクオリティーオブライフ：生活の質)を向上させるものとして医学関連の学会でも報告されており、メーカーキャップを取り入れる医療機関も徐々に増えています。

資生堂では、このような外見の変化に対するカバーメーカーキャップを「ライフクオリティー メーカーキャップ」と称し、東京・銀座の専門施設「資生堂 ライフクオリティー ビューティーセンター」をはじめ、全国の都道府県の約370ヶ所の化粧品専門店やデパートなどのカウンセリング店舗でメーカーキャップアドバイスを行っています。

自己流でメーカーキャップをしようと思うようにカバーができず、難しいと感じ敬遠してしまうことがあります。専用の商品「パーフェクトカバーファンデーション」を使って、ちょっとしたコツを習得すれば手軽に行うことができます。資生堂 ライフクオリティー ビューティーセンターや全国の店舗では、専門の美容スタッフが患者様ご自身あるいはご家族の方が自宅に帰ってから再現できるような方法をお伝えしています。プライバシーが守られたスペースで行いますので、人目を気にせずご相談できます。

あるとき、就学前の男のお子様がメーカーキャップを受けられたことがありました。お母様にカバーの方法をお伝えしたのですが、ご本人がとても興味を持ち、自分の指でファンデーションをちょんちょん、とつけていました。今では外出するときに、自分でファンデーションをつけているそうです。

メーカーキャップを生活の中に上手に取り入れることができれば、患者様ご本人やご家族の安心にもつながります。メーカーキャップが少しでも多くの患者様およびそのご家族の社会生活のお役に立てることができれば幸いです。

資生堂ライフクオリティービューティーセンター  
 (東京・銀座)のご案内

電話 03-3289-2262

予約受付時間 11:00～18:00(火曜から金曜)  
 営業時間 11:00～19:00(火曜から土曜)  
 定休日 月曜・日曜・祝日  
<http://www.shiseidogroup.jp/slqc/>

\*ご来所前に、必ずご予約のお電話をお願いいたします。  
 \*アドバイスは完全予約制で、無料です。





## Q & A コーナー

質 問：琉球大学口唇口蓋裂センターについておしえて下さい  
 —琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センターの活動概要—

お答え：琉球大学医学部附属病院 歯科口腔外科  
 後藤 尊広 先生

今回、琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター（以下、口唇口蓋裂センター）の紹介を致します。皆様ご存じのように、「口唇裂・口蓋裂」は発生頻度の高い外表奇形の一つとされ、日本人では約500人に1人の割合で発生し、その原因は未だ不明瞭な部分が多く、環境的・遺伝的因子が複雑に絡み合っているとされています。「口唇裂・口蓋裂」による問題は、審美・哺乳・咀嚼・言語・咬合と多岐に亘り、患児の成長・発育に応じて、適切な時期に適切な治療を行う一貫治療が極めて重要です。したがって、それぞれの専門分野の垣根を越えたチーム医療が必要となります。



琉球大学医学部附属病院

2006年に琉球大学医学部附属病院では、歯科口腔外科(口腔外科医、歯科矯正科医)、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、看護師、言語聴覚士、ソーシャルワーカーらによる他職種から構成される口唇口蓋裂センターが設立されました。口唇口蓋裂センターには、幸いにこれまで過去20年間に年間平均約30名の口唇裂・口蓋裂患者が受診して頂いています。この受診数は、沖縄県で年間出生すると推測される口唇裂・口蓋裂患者数のおよそ9割を示しており、全国的にもこれほど多くの患者が集約している施設は多くないと思われます。この受診数はわれわれにとって「さらにレベルアップした医療を県民に提供しなくてはならない」という使命感に繋がっています。

最近では、超音波検査の発達によって口唇裂は出生前診断されることが多くなってきました。口唇口蓋裂センターでは、積極的に産婦人科からの紹介を受け、出生前のオリエンテーションを行うとともに出生後は直ちに産婦人科に往診して患者ならび家族の支援を行っています。今後はこの活動を沖縄県全土に広げていきたいと考えています。

また、口唇口蓋裂センターの活動は沖縄県内に止まらずに国外に活動範囲を広げ、ラオス国、エチオピア国などで海外医療援助活動を行っています。特にラオス国では10年間で259例の口唇口蓋裂関連の手術を行うとともに現地医師、看護師などの医療向上の発展に貢献し、その活動内容に対して2006年には第3回沖縄平和賞を受賞することができました。

今後も、われわれは患者さんに寄り添った「治療」に尽力する一方、「研究」にも研鑽を注ぎ、これらの成果を各専門学会で積極的に発表して幅広く意見交換するとともに、県内外に当センターの活動を報告し、患者さんにその成果を還元できるように日々努力していきたいと考えています。

最後に、われわれは日々日常業務に忙しくしていますが、新生児のときに来院され数回の手術を経て、やがて小学生、中学生になり、成人されていく患者の姿に元気を頂いています。これからも、ある時は一緒に悩み、いわば家族のように見守りながら口唇口蓋裂センターの活動を行っていききたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



ラオスでの手術 (写真右：西原准教授、左：後藤助教)



ラオスでの術後患者 (写真右：牧志助教、左：西原准教授)

## 最近の国内活動

### ■モンゴル国立医療科学大学一行来名

2015年1月25日(日)から27日(火)まで、モンゴル国立医療科学大学の教員・学生ならびに同国医師の総17名が名古屋に滞在し、病院視察などを行いました。うちアマルサイハン副学長らの教員・医師代表は、26日(月)に名古屋市立大学病院と名古屋大学病院及び医療法人生会(在名古屋モンゴル国名誉領事館)、27日(火)には名古屋西部医療センターと愛知県がんセンターを訪問しました。それぞれの病院では、まず教員・医師一行と大学・病院代表者との面談が行われ、お互いに一層の医療協力を誓い合いました。特に名古屋市立大学よりは、上記大学と姉妹校提携を締結したいとの旨が出されました。これは名古屋市立大学が、当団体を通じて同国の医療支援に長年携わり、上記大学の客員教授である先生がたもられる点を受けてのことで、近いうちに成果が期待出来ます。また、どの病院の視察においても日本有数の最新医療に触れることが出来、専門の医師による丁寧な説明も行われました。



名古屋市立大学にて



名古屋大学にて



愛知県がんセンターにて



名古屋西部医療センターにて

### ■エチオピア連邦民主共和国科学技術省科学技術大臣一行来名

平成27年2月20日(金)、日本の最新科学技術の視察のため来日中のエチオピア連邦民主共和国のダミチュ・ハンビサ科学技術省科学技術大臣ら一行8名が来名し、当協会が事務局を行っている在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事館より訪問先の手配等を行い、当協会相談役の松本定道名誉領事と夏目長門常務理事が同行いたしました。

当協会が本部を置く愛知学院大学への表敬訪問、昨年オープンしたばかりのハイテクキャンパスの視察や、医療施設と芸術工学とのコラボレーションを行っている名古屋市立大学へ訪問をいたしました。

また最近メディアでよく取り上げられている歩行訓練機“アクシブ”の開発者である名古屋工業大学 佐野 明人教授によるプレゼンテーションを設けるなど、様々な分野の名古屋における最新科学技術を視察していただきました。



ダミチュ・ハンビサ科学技術大臣と  
小出忠孝愛知学院学院長



ダミチュ・ハンビサ エチオピア科学技術省科学技術大臣  
マルコス・タクレ・リケ エチオピア駐日大使

ゲタフン・メクリア	エチオピア科学技術省部長
スレレグン・テフェラ	アデイスアベバ科学技術大学学長
ジャン・ギユ・リー	アダマ科学技術大学学長
ソロモン・ゲタチュウ	科学技術省科学アドバイザー
エンダレウ・メコネ	NQIプロジェクトマネージャー
郡 健二郎	名古屋市立大学理事長
三宅 勝	名古屋市立大学副理事長
城 卓志	名古屋市立大学医学部附属病院病院長
松本 定道	在名古屋エチオピア名誉領事
夏目 長門	日本口唇口蓋裂協会常務理事

### ■アジアの厚生省のスタッフに口唇口蓋裂について講義

平成27年2月16日、日本口唇口蓋裂協会常務理事の夏目長門先生が名古屋大学のヤング・リーダーズ・プログラム(YLP)の講義を担当しました。ヤング・リーダーズ・プログラムは、アジア諸国の指導者として活躍が期待される若手スタッフを日本の大学院等に招き、短期間で学位を授与する日本政府(文部科学省)の留学プログラムです。名古屋大学のYLPは医療行政学の修士課程で、現在、アジア諸国(モンゴル、ミャンマー、バングラデシュ、マレーシア、カンボジア、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、アフガニスタン)の厚生省より派遣された第12期生11名が在籍しています。

最初に名古屋大学でYLPプログラムを担当されている医療行政学教授の浜島信之先生より夏目教授の紹介があり、その後、講義となりました。

今回の夏目教授の講義のテーマは以下の二題で、質疑応答を含め、約90分の講義でした。

- 1) Diagnostic/Genetic Screening Approach for genetic diagnoses and prevention of cleft lip and/or palate  
(診断および遺伝的スクリーニングによる口唇口蓋裂の遺伝診断と予防の試み)
- 2) NGO activities From Charitable Operation to Patients with Cleft Lip and Palate to Establishing Honorary Consulate  
(NGO活動～口唇口蓋裂患者の無償手術から名誉領事館の設立まで～)

すべて英語の今回の講義では、豊富な画像を盛り込んだ動画を使って内容がわかりやすく紹介され、講義後の質疑応答では留学生から活発な発言がありました。



## 海外医療援助

### ラオス人民民主共和国訪問

平成26年11月14日～17日に夏目長門常務理事がラオス国を訪問しました。ソモック厚生副大臣、スッコンセンラオス国立大学学長、健康科学大学副学長らと面談し、ラオス国への医療援助活動について意見交換をしました。今年には日本・ラオス外交樹立60周年記念の年となります。平成11年から始まった医療援助を通じた日本口唇口蓋裂協会との友好関係も更に深まるよう今後もラオス国の患者様のために活動していきたいと思えます。

### ラオス人民民主共和国

平成26年12月18日～12月28日

(第25ラオス人民民主共和国医療援助事業活動)

一般財団法人ゆうちょ財団の平成26年度NGO海外援助活動助成金事業として、砂川元琉球大学名誉教授他2名がラオス人民民主共和国を訪問し、ビエンチャン、セタティラート病院で26名の術前診察、うち15名の手術をおこないました。日本から医療機材や薬剤を持参し、現地の医師や医療従事者とともに診察や手術をすることで口唇口蓋裂の手術や術前術後のケア等の技術移転をおこなうことができました。



手術の様子



患者さんと両親

#### 【口腔外科医】

砂川 元 琉球大学 名誉教授

#### 【麻酔医】

西 啓亨 琉球大学医学部 助教  
(派遣期間は、12月25日まで)

#### 【看護師】

宮城 孝徳 琉球大学医学部附属病院  
(派遣期間は、12月25日まで)

### ベトナム社会主義共和国

平成26年12月19日～12月28日

(第70次ベトナム国医療援助事業活動)

本年度もベトナム社会主義共和国ベンチエ省ベンチエ市グエンディンチュー病院での口唇口蓋裂児の診察および無料手術を主な目的とした医療援助診療隊を派遣しました。12月20日の診察日には84名の子ども達を診察しました。21日には前年度までに手術した子ども3名の家庭を訪問して診療を行い、また現地の障がい児学園を訪れて子ども達と交流しました。同日夜にはベトナム国の人民委員会主催のパーティーが開催され、歓迎を受けました。22～26日の5日間には全身麻酔による口唇裂、口蓋裂や巨舌症等の手術を行いました。今回のミッションでは手術室当たりの1日の手術件数を増やし、また重症患者も含まれていたため診療隊の負担は大きくなりましたが、昨年度より10名多い58名の患者の手術を行うことができました。また、昨年同様歯科衛生士の参加を得て口腔ケアの指導も行うことができました。

二十年以上の長きにわたって続けられているこのミッションが皆様からのご支援と参加者の献身的な努力により今回も無事に遂行できたことを報告します。また、並行して学術調査も実施されました。



ベンチエ隊参加者：

#### 【口腔外科医】

高橋 喜浩 大分大学  
近津 大地 東京医科大学  
西條 英人 東京大学  
吉田 将亜 旭川医科大学  
土生 学 九州医科大学  
中地 浩之 東京医科大学  
柴山 尚大 旭川医科大学  
三次 翔 九州医科大学  
横尾 嘉宣 洛和会 音羽病院  
山内 楓子 愛知学院大学

#### 【麻酔医】

福井 雅士 医療法人春回会 井上病院  
鈴木 昭広 旭川医科大学  
今井 努 高山赤十字病院  
木村 直暁 桶狭間病院  
藤田こころケアセンター

佐々木美圭 大分大学  
山口喜一郎 九州医科大学  
西井 裕一 社会医療法人宏調会 大同病院

#### 【小児科医】

杉山 成司 愛知学院大学

#### 【看護師】

水野 敏子 北海道大学病院  
菅野 香 愛知学院大学歯学部附属病院  
丹下 尚美 九州医科大学附属病院  
立花香織理 大分大学医学部附属病院  
鶴崎 文美 旭川医科大学医学部附属病院  
柴田 祐希 社会福祉法人敬和会  
戸登 結唯 大分岡病院

#### 【歯科衛生士】

山崎 靖子 大分大学歯学部

#### 【学生】

仙波 尚之 旭川医科大学  
村田 雄基 旭川医科大学  
鎌手 美栄 九州医科大学  
中村 和貴 長崎大学  
仲野 りりこ 旭川医科大学

#### 【学術調査参加者】

香月 武 九州医科大学  
柳澤 繁孝 社会福祉法人敬和会 大分岡病院

吉増 秀實 東京医科大学  
松田 光悦 旭川医科大学  
三古谷 忠 北海道大学  
夏目 長門 愛知学院大学  
笹栗 正明 九州医科大学  
新美 照幸 愛知学院大学  
森田 幸子 長崎大学  
井村 英人 愛知学院大学  
大野 磨弥 愛知学院大学  
佐久間千里 愛知学院大学

### モンゴル国医療支援 2015年度参加者募集

期間：2015年8月17日(明)～8月22日(土)

費用：28万円

※期間中の国際航空運賃・宿泊費・食料代・モンゴル国内移動費などを含む。  
※日本国内の空港までの交通費、旅行保険代金などは含みません。

対象：医師、歯科医師などの医療者、大学院生、大学生・高校生及びその保護者その他一般のかたも可能

締切：2015年6月末日

問い合わせ先

E-mail: info7@jcpf.or.jp

(担当：吉田)

## 第9回国際口唇口蓋裂会議《New Horizons for Cleft Patients》

The 9<sup>th</sup> World Congress of International Cleft Lip and Palate Foundation

開催月日：2015年9月2日(水)～4日(金)

日本口唇口蓋裂協会が事務局を担当する国際口唇口蓋裂協会主催の国際会議が第一モスクワ国立医科大学ならびにモスクワ口蓋裂学会との共催にて本年9月開催されます。口唇口蓋裂患者治療への新たな挑戦に向けて、ここ2年アジアでの開催には少なかったヨーロッパ各地からの招待講演者も予定されております。患者のために各国の医療従事者が連携して取り組むこの会議にぜひともご参加ご検討くださるようご案内いたします。9月のモスクワは夏の終わりの時期で観光にも最適です。歴史ある街並み、芸術にも触れるよい機会ではないかと存じます。



開催場所：セチェノフ名称第一モスクワ国立医科大学  
(ロシア連邦 モスクワ) Exhibition and Congress- Hall

募集演題分野：口唇口蓋裂ならびに口腔疾患の口演

演題締切日：2015年5月31日(日)

抄録応募はweb([http://www.icpf2015moscow.org/tezis\\_eng](http://www.icpf2015moscow.org/tezis_eng))にて詳細をご覧ください。

募集演題

SURGERY

- Congenital Head, Face & Neck Pathology
- TMJ disorders in patients with congenital deformities of maxillofacial area
- Orthognathic surgery in patients with congenital Head, Face & Neck Pathology
- Distraction osteogenesis in patients with congenital maxillofacial pathology
- Advancement in Oral Surgery in treatment of patients with Congenital maxillofacial deformities
- Soft tissue management of patients with Congenital maxillofacial deformities

ORTHODONTICS

- Multidisciplinary approach in Management of children with Cleft Lip and Palate
- Orthodontic management of patients with Congenital Head, Face & Neck Pathology

SPEECH THERAPY

- Advancement in ST for patients with Cleft Lip and Palate

PRE-NATAL DIAGNOSTICS & PHYSIOLOGICAL COUNSELING

- Genetic diagnostics for "risk group" parents
- Prenatal diagnosis and parental counseling

WEB： <http://www.icpf2015moscow.org/eng>

詳細についてのお問い合わせは下記にでも承っております。(日本語でも可能)

(国際口唇口蓋裂協会日本事務局 office@icpfweb.org)

参加費用	早期割引	
	2015年5月31日まで	2015年6月1日以降
医師・歯科医師	22,000RUB ≒ 350USD	25,000RUB ≒ 400USD
研修医・大学院生	6,500RUB ≒ 105USD	9,500RUB ≒ 155USD
看護師・コメディカル	12,500RUB ≒ 200USD	15,500RUB ≒ 250USD
同伴者	6,000RUB ≒ 100USD	9,000RUB ≒ 145USD

RUB：ロシア ルーブル

USD：アメリカ ドル

※現地での当日の参加登録費は、更に高額(金額未定)になる見込みです。

本国際会議に先立ち、8/31、9/1の両日、日露医学交流フォーラムも日本医学歯学情報機構と共催で開催いたします。あわせてご参加をご検討くださいますようお願い申し上げます。

(フォーラム連絡先：office40@jmdn.org)

## ベトナム ベンチェ省での活動を終えて

長崎大学歯学部3年 中村 和貴

### ベンチェ省活動1日目

前日の深夜にベンチェ省のゲストハウスに到着しました。美味しい朝ご飯を頂き自己紹介を兼ねたミーティングをしました。先生方や看護師さん、通訳さんたちの意気込みを肌で感じ、学生の僕が少しでも力になれるようにと心に刻みました。

僕は中央機材とオペ2(愛知学院大学)で手伝わせてもらうことになりました。現地では立派なオペ室があり、そこに多くの機材を運び込みました。そして午後から患者さんたちが待っている病棟に向かいました。本当に多くの患者さんと家族が待っておられました。先生たちの診断、血液検査、印象、会計という流れで患者さんたちを観て行きました。およそ130の患者さんのうち半数の患者さんが手術の適応となりました。僕はそこで森田先生のもと印象を採ることと患者さんたちの診察をスムーズにするメッセージの役割をさせてもらった。僕も口蓋裂の患者の印象をとらせてもらった。印象をとるとき、患者さんをじっとさせることが難しく、言葉が全く患者さんや両親に伝えることが出来なかった。だけど目で安心感を与えられる工夫をした。ベトナムの都市部では口唇口蓋裂を理由に中絶を選択する人が多くなり、ベンチェ省では日本口唇口蓋裂協会の長年の活動により、ほとんどなくなっているということを夏目先生が説明して下さい、感銘を受けました。口唇裂や口蓋裂を理由に中絶で生まれてこれなかった赤ちゃんを少しでも救いたかったです。



### ベンチェ省活動2日目

患者さんのお宅に伺わせてもらいました。私たちが到着すると患者さんの家族が暖かくもてなしてくれた。幼い子供を連れて両親が田舎から病院までの長距離の移動の大変さを感じました。

そのあと障害者学校へ行きました。その時私の特技のバルーンアートを子供たちに配るとみんなが喜んでくれて嬉しかったです。



### ベンチェ省活動3日目

朝五時起床で朝六時ご飯を頂いた後すぐ病院に行くと、患者さんたちの計温をした。

夏目先生の口唇裂の手術を見させて頂いた。夏目先生がオペした患者さんは日本口唇口蓋裂協会の活動がなければ中絶されていたと思われます。中絶を考えていた両親を病院側がこのベンチェ省でのプログラムがあることを理由に思い止まらせた。

先生はこの患者さんや両親をモデルケースにさらに多くの中絶されうる子供を救いたいというお話に心打たれました。口唇口蓋裂の患者は優しく家族思いであることを広く知ってもらい、また脳プログラムもやっていて口蓋裂の患者に単に言語訓練をするのではなく、計算をさせたりすることでIQを高めるといっていじめられにくくすることができるというお話にも感動しました。先生は手術が終わると患者の両親に「口蓋裂の子は優しい子が多く親孝行ものになります。少し傷が残るかもし

れないけどそれが人間の深みをます。将来医者になってぜひ連絡下さい」と名刺を渡される様子に、手術だけでなく、手術後患者さんと両親にお話しをすることがいかに大切であるかを感じました。実際先生の教え子には先生が手術なさった子がおられるそうです。時間にすると10分くらいのお話しで患者さんとそのご家族までの人生を変えるものになっているのではないかと思います。



#### ベンチェ省活動4日目から7日目

朝六時朝食を頂き、病院に向かい患者さんの体温を測ることから1日が始まりました。森田先生と現地の技工士さんとともにプレート製作をし、患者さんに適合するかをチェックしたり、歯科衛生士さんが手術前に行う口腔ケアを手伝わせて頂いた。適合チェックするだけでも患者さんたちは怖がり幼い子は泣いてしまう。通訳さんの力も借りて「大丈夫、痛くない」をベトナム語でいうと安心してくれて口を開けてくれるようになりました。



また手術着を着て新美先生や井村先生の手術に立ち会わせてもらいました。オペ室に入ることさえ初めてだった私に先生たちに優しく様々なことに挑戦させて下さいました。口唇裂と口蓋裂の手術を見させて頂き、とても感動して僕も口腔外科医になって口唇口蓋裂に苦しむ人を助けたいという思いが出てきました。夕食後先生たちが回診に連れて行って下さいました。回診の時の子供たちやその両親の笑顔にこころ打たれました。

#### ベンチェ省活動8日目

オペ室の片付けをしてダンボールに詰める作業をしました。もう終わってしまうという寂しさと達成感がありました。その後先生たちは自分の担当の患者さんを診察されました。診察の際患者さんと両親たちの笑顔に私も将来自分の手で手術して患者さんたちを笑顔にさせたいと強く思いました。



今回のベトナムミッションに学生として参加させて頂いて本当にありがたく嬉しく思っております。学生でも出来ることは多くあり、大変勉強になりました。これからも日本口唇口蓋裂協会の活動に参加させて頂き、将来自分が手術を執刀できるようになり、中絶させる子供を一人でも減らすことが今の私の夢になりました。

本当にありがとうございます。

## 新規法人会員のご紹介 ご入会頂きありがとうございました

### ◆法人賛助会員

株式会社伊藤園      ダイードリンク株式会社  
和田精密歯研株式会社 名古屋事業所

## 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会 平成27年度活動報告会のご案内

平成27年度活動報告会を下記の如く開催いたします。会員の皆様にはご多忙の事と存じますが、何卒ご出席賜りますようご案内申し上げます。ご出席いただけます場合は、当協会へFAX又はメールにて送付先、お名前、会員番号等お知らせ下さい。(締切:平成27年4月13日(月)詳細をお知らせ致します)

日 時:平成27年5月12日(火) 午前10:45～11:30  
場 所:東桜会館 名古屋市東区東桜二丁目6-30  
電 話:052-973-2223

【お問い合わせ先】 日本口唇口蓋裂協会

TEL 052-757-4312 / FAX 052-757-4465 E-mail jcpf@jcpf.or.jp

## 寄附講座のご報告



菊池良和先生



菊池先生のご講演



吉田教明先生



吉田先生のご講演

2015年2月21日(土)午後より、愛知学院大学歯学部楠元学舎において、2人の先生をお招きし、それぞれにご講演を賜りました。

1. 九州大学病院耳鼻咽喉科の菊池良和先生よりは「吃音相談者の心をつかむポイントー素人と専門家の違いー」と題し、吃音治療に長年携わっておられてこそ獲得出来た先生独自のカギやコツを教えてくださいました。吃音について正しい知識や理解を持つこと、常に患者の観点に立った治療やアドバイスをを行うことの重要性を示されました。今回は現役の言語聴覚士ほか、将来、言語聴覚士を目指す学生も多く参加しており、素晴らしい勉強機会となりました。
2. 長崎大学の吉田教明教授よりは、「ライフステージに応じた口唇口蓋裂患者の矯正治療と今後の展望」と題し、丁寧に分かり易く、赤ちゃんの時期からの口唇口蓋裂患者の矯正治療について解説して頂きました。すべての歯を残すことにこだわらず適切な抜歯により上手に矯正出来るケースがあることや口唇口蓋裂手術の良し悪しが矯正治療に大きな影響を与える点などを示されました。まったく知識のない学生や一般のかたでも口唇口蓋裂患者特有の矯正について、よく理解することができました。

両先生それぞれのご講演後の質問の時間には、現役の医師らより診療上の悩みなどの質問が数多く出されました。114名が参加して予定時間を延長しての閉会となりました。

[会報担当:吉田]